様式第３号（第８条関係）

会　議　録

<table>
<tr><td>会議名</td><td colspan="6">令和８年度第３回東松山市子ども読書活動推進懇談会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">開催日時</td><td colspan="3" rowspan="2">令和８年１０月１９日（月）</td><td>開　会</td><td colspan="2">午後３時３０分</td></tr>
<tr><td>閉　会</td><td colspan="2">午後５時００分</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="6">東松山市立図書館３階研修室</td></tr>
<tr><td>会議次第</td><td colspan="6">１　開会
２　あいさつ
３　議事
・アンケート集計結果について
・第３次東松山市子ども読書活動推進計画素案について
４　報告
５　その他
６　閉会</td></tr>
<tr><td>公開・非公開の別</td><td colspan="2">公開</td><td colspan="2">傍聴者数</td><td colspan="2">１名</td></tr>
<tr><td>非公開の理由
（非公開の場合）</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td rowspan="7">参加者出席状況</td><td>座　長</td><td>森田 隆</td><td>出席</td><td>参加者</td><td>西岡 里枝子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>金子 郁美</td><td>欠席</td><td>参加者</td><td>石原 冬樹</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>宮原 陽子</td><td>出席</td><td>参加者</td><td>岡村 益美</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>吉野 元基</td><td>出席</td><td>参加者</td><td>荻野 真美</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>飯塚 規文</td><td>出席</td><td>参加者</td><td>菊池 奈緒子</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>岩崎 慶一</td><td>出席</td><td>参加者</td><td>岡部 成志</td><td>欠席</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">事　務　局</td><td colspan="3">市立図書館長　荻野 裕</td><td colspan="3">市立図書館主査　佐藤 幸恵</td></tr>
<tr><td colspan="3">市立図書館主査　岡部 宏章</td><td colspan="3">市立図書館主任　堀 千尋</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

次　　第	顛　　末
1　開会	事務局
2　あいさつ	森田座長
会議の公開、会議録署名委員の指名	会議の公開、傍聴人、会議録署名委員の指名について （岡部主査）会議を公開とするか非公開とするか、傍聴の申込みは１名あったこと、会議録の署名人を指名することについて、説明。 ・会議については公開、傍聴希望者の傍聴、会議録署名人は森田氏と西岡氏を指名することについて、全員了承。
3　議事	・アンケート集計結果について （事務局　堀主任）説明 （森田座長） 説明が終わりました。今の説明でアンケート結果の説明・分析等がありましたが、計画にもこれらが掲載されるものになりますでしょうか。 （事務局　佐藤主査） 一部アンケート結果を使用して課題としている部分はありますが、アンケート結果については、そのまま掲載したいと考えております。 （森田座長） 西岡さんから順にご意見等あればお願いいたします。 （高坂ひまわり保育園　西岡氏） 保育園児の保護者の方はどうしても共働きの方が多いので、仕事や家事育児に追われてしまい時間がない傾向はあると思います。保護者向けのアンケートの自由記載の質問にも、読み聞かせはおろか話し相手や遊び相手になることも難しいという趣旨の回答がありました。平日になかなかそういった時間を家庭でとれない分、保育園では読み聞かせを多く行ってバランスをとっているのかな、と思い

	ました。 （白山中学校　図書主任　石原氏） 　中学生の読書量の少なさの理由としては、はっきりとはわかりませんが、われわれが子どものころは例えば文庫本を１冊読めばそれがそのまま読書量でした。現在ではその代替になるようなショート動画などがあるため､受ける情報の総量としては変わっていないが、それが様々な媒体に分散されてしまっている、ということが可能性としてはあるのかな、と思います。現在中学生はほぼ１００％近くスマートフォンを持っていると思われ、動画などの媒体に触れることが容易になっています。また、学校の図書室に行かない子どもの割合が高いということに関しては、白山中ですと開室時間が昼休みの１５分だけということもあり、ある程度うなずいてしまうところなのかなと考えます。小学校については委細を承知しておりませんが、読書の時間があったり、図書室の司書の先生が担当している時間があると把握しているので､その差が出ているのかなと思います。ちなみに白山中の図書室は平日に開室しておりますが、行事などの日は閉室になったりすることがしばしばあります。また、新型コロナウイルスの流行期には閉鎖されておりましたので、そういったところで図書室離れが進んだことは否めないのかなと感じます。 　本をどうやって選んでいるかという質問では中学生では「本屋で見て」が６４．９％の回答を集めておりますが、子どもたちの間で本屋に行ったという話をあまり聞きません。イメージとして多いのはテレビドラマ・アニメ・映画のノベライズ版や原作小説で、それを本屋に買いに行ってみたというのが実態に近いのかな、と推測しております。 （松山女子高校　司書　宮原氏） 　質問は特になく、感想という形になりますが、本が好きかという質問に対して高校生の７割近くが「好き」､「どちらかといえば好き」と回答していたのは利用実態などを鑑みて意外に多いなという印象でした。その状況を踏まえてもなお不読率が５０パーセントを超えているのは高校生の忙しさかなと感じます｡勉強や部活はもちろん、通学についても小中学生よりは時間を取られます。その上でさらに

	インターネットの動画コンテンツなどもある状況ですので、なかなか好きな気持ちがあっても読書に時間が割きづらいのかと思います。正直、この年代になってしまうと、嫌いになってしまったものをこちらからの働きかけで好きにさせるということは難しいです。まだ好きという気持ちが残っている子にどういったアプローチやＰＲをしていくのかが重要と感じました。 　図書館への来館頻度の質問への回答率については、私の感覚とも一致するところです。生徒の１割も相手をしていないというのが正直なところで、新１年生時のオリエンテーション以外では寄り付かないという生徒も多いと感じています。もっと来館してほしいが、高校生の忙しさという問題と、館の利用は生徒の自主性に任されているという現状があり、今後の館としての課題でもあります。 　学校図書館への来館率が低いという状況ですので、必然読む本を選ぶ方法の質問への回答も「学校（図書室）でみて」の回答割合は低いものとなります。 　本を選ぶ方法についての質問については、中学校同様に「本屋で見て」という回答が多いのですが、本校の場合は年１回あるビブリオバトルで使うための本を選ぶために本屋に行っているという印象です。図書館で借りるのは貸し出し期限である２週間以内に読み切れる子、というイメージです。 （つくしんぼの会　岡村氏） 　保護者の読書に対する姿勢が子どものそれに強く影響すると感じます。子どもの読書内容を親が把握することは小学５年生くらいまではできるものなのでしょうか。また未就学児や小学校低学年のうちは一人で図書館に行くのは難しい年齢でしょうが、小学校高学年になれば一人で行くことは決して難しいことではないと考えます。現状それほど行ってないということは友達と遊んだりするほうが楽しいということなのだろうかと感じます。 （障害者福祉課　吉野副課長） 　興味関心が多様化している現在の状況で、これだけの割合が読書が好きと回答しているのは状況としては悪くないのでないかと感じます。

	（健康推進課　荻野主査） 　中学生の読書好きの割合がその後あまり変わっていないので、宮原先生のおっしゃる通り読書嫌いな子を好きに変えさせるというのは難しいのだと感じておりますが、読書好きな子の割合が落ちなければよいなと考えます。私事になりますが、娘は全然本を読まないと感じていたのですが、流行りの本や友人の間で話題になった本を時折読んでいるらしく、読んだ本を勧めてきたり、その本の感想を言ってあげると続編を買ってきたりということがありました。保護者の目線からすると、本の感想を共有することで子どもが読書に興味を持ちやすくなる側面はあるかと思います。 　乳幼児健診の場面などを見ていても、お母さんはスマートフォンを触っていても、子どもは絵本があればそれを読んだり、つくしんぼの会の読み聞かせなどに誘導してあげるとそこに集まって楽しそうにしていたりするので、もっと様々な場面で本に触れあう機会が増えればよいなと考えています。 （学校教育課　岩崎副主幹） 　保護者向けのアンケートの「読み聞かせをしていたか」という質問で、読み聞かせをしていたという回答の率が未就学児から小学５年生までさほど変わらないことが印象に残りました。この結果を見るだけでも高学年の家庭でもまだ読み聞かせをしているのだ、なら我が家でもやってみようかといったような啓発の効果があるのではないかと感じました。難しい部分もいろいろあるかと存じますが、こういったよい結果、というものを家庭にフィードバックしていけばよいのではないかと思いました。 （こども支援課　飯塚副課長） 　保護者向けのアンケートの結果を見て気になった点は、大人でも年齢層が上がるにしたがって読書が「好き」「どちらかといえば好き」の割合が減ってきていることです。おそらく高校生の保護者に同様のアンケートを取れば、読書好きの割合はさらに下がってゆくのだろうと思います。希望となりますが、ここにテコ入れをして読書好きの大人を増やしていくことが、ひいては本の好きな子どもを増やす取り組みになるのではないかと思いました。

	（まつやま保育園　菊池主査） 　児童生徒のアンケートの読書通帳に関する質問に関しては、読書記録を「つけていない」という回答の割合が高くもったいないと感じました。「読書通帳を知らない」との回答もあり、新入生全員に配布しているものをなぜ知らないのかと不思議な感じがいたしました。 　保護者向けのアンケートの自由記述で子どもが騒がしくしてしまうから図書館に来られないという趣旨の意見がありましたが、これももったいないと感じております。つくしんぼの会さんなどは読み聞かせの時などは多少にぎやかにしてもよいと言ってくださると思いますので、こういったことが保護者の方に広まれば来館の確率がもっと高まるのかなと思います。また、本が好きという回答の割合が思ったよりも高いのはうれしい結果でした。 （森田座長） 　皆さんありがとうございました。アンケートの集計につきましては、クロス集計を追加していただけるとよいかと思います。また、保護者向けアンケートについては母数の正確な算出が難しいということは聞いておりましたが、概算の回答率等はわかりますでしょうか。 （事務局　堀主任） 　未就学児については、幼稚園、保育園、認定こども園いずれにおいても、また、小学生については２年生、５年生のいずれにおいてもおおむね５割前後の回答をいただいております。 （森田座長） 　ありがとうございました。続きまして、議事の２つ目、第３次東松山市子ども読書活動推進計画素案についての説明をお願いします。 ・第３次東松山市子ども読書活動推進計画素案について （事務局　佐藤主査）第１章について説明

	（森田座長） 第１章のところでご質問等ありますでしょうか。 （質問なし） （事務局　佐藤主査）第２章について説明 （森田座長） 第２章のところでご質問等ありますでしょうか。 ※（素案内の誤字について指摘あり） （事務局　佐藤主査）第３章について説明 （森田座長） ありがとうございました。何点か計画のポイントになるのでご意見いただきたい部分がございます。素案１７ページの施策体系の図について、図書館をどこに位置付けるかという問題がございます。県立図書館や多くの公立図書館では図書館を「地域における推進」に、さいたま市、三芳町など家庭、地域、学校のほかに「図書館における推進」の項目を設けている計画もございます。次の第４章にも絡んでくる部分ですので、こうしたほうが良いなどのご意見があれば頂ければと存じます。 （こども支援課　飯塚副課長） 座長がおっしゃっていた「図書館における推進」の項目が計画に入る場合、何番目の項目になるでしょうか。 （森田座長） さいたま市の計画では４番目、三芳町の計画では家庭と地域の間でした。 個人的な意見となりますが、東松山市の計画ですので、図書館の位置づけというのは、ある意味バックアップ、支援する立場でもよいのかなと考えております。図書館を前面に出して図書館の計画と

	思われるのは望ましくなく、市を挙げて家庭・地域・学校が力を合わせて取り組むという計画にしたいという思いがあります。 （こども支援課　飯塚副課長） 家庭・地域・学校等における、という書き出しの中で、図書館が先頭に来るというのは確かに違和感があるなと感じております。 （森田座長） 時間もありませんので、いったんこの件はここまでにして、事務局説明の中で提案のあった進行管理の部分について議論をしたいと思います。成果目標として現行の計画に組み込んでおりました貸し出し冊数、中高生の貸出利用者数については第3次計画では盛り込まないという形でよろしいでしょうか。 （一同、異議なし） （森田座長） ありがとうございます。残る２つの成果目標である読書好きの子どもの割合と、不読率については、いかがでしょうか。すでに右上がりの時代ではないため、現状維持でも素晴らしい成果と言えるのではないかと考えております。一方で、計画ですので、むやみに目標数値は下げられないというところで、事務局も苦慮したうえでの目標値の修正提案であったと思いますが、こちらについても併せてご意見を頂けたらと存じます。 （こども支援課　飯塚副課長） 小中学生については、問題ないかな、と思ったのですが、高校２年生の数字が気になるところです。果たしてこれが良い数字と言えるのか、ということが懸念点かと存じます。 （森田座長） この件、宮原先生はいかがお考えでしょうか。

	（白山中学校　図書主任　石原氏） ５年後､すなわち令和１３年の高校２年生は現在小学生ですので、高校職員である宮原様の立場からお答えするのは難しいのではと考えます。 （事務局　荻野館長） さきほど座長がおっしゃったように現状維持でも実質的にはプラスだという認識の中で事務局としても目標値を設定しているところです。実際値と乖離し続けるような目標値を設定したところで、計画としても苦しくなってしまうというなかで、こういった目標値を設定しております。高校２年生向けのアンケートについては、今回初めて計画の中に盛り込んだものになりますが、ご意見等があれば目標値について修正をさせていただくことは可能という認識です。 （健康推進課　荻野主査） ２回目の会議資料の中の他市の状況を拝見しておりますと、高校生の数値目標を設定している自治体がほぼなく、事務局の意向として今回はあえて計画に入れたいのだろうかという点がまずあります。また、数値目標を設定している自治体でも不読率が５０％程度のところもあるので、現況の当市の数字は表に出ている中では決して悪いものではないと思われます。 （荻野館長） 今回高校生向けのアンケートを行ったということで、計画に盛り込んだというところが理由の１点としてあります。アンケートを行った理由としては、本計画の対象として１８歳以下の子どもを設定している点がございます。委員さんよりご指摘をいただいた点も踏まえ、あえて計画への記載をしないという選択もあるかとは考えますが、次回のアンケートを行う際になぜ指標にもなっていないアンケートを行うのかという指摘を受けてしまう可能性もあるため、できれば継続してまいりたいと考えております。

	（健康推進課　荻野主査） 目標値を設定せずに参考値として記載し、アンケートを継続するという方法もあるかと考えます。 （事務局　荻野館長） おっしゃるように目標値を設定せず、アンケートは継続するというところも検討してまいります。 （事務局　佐藤主査）第４章について説明 （森田座長） 説明が終わりました。申し訳ありませんが、残りの時間がなくなってしまいました。先ほど議題に上がりました図書館における推進の位置づけなどは事務局にお任せして、各機関における推進で第３次計画に盛り込むべきものがあれば今週中までに事務局にメール等で送付いただくようお願いいたします。 最後に、第４章の「４　学校等における推進」のなかで、小学校・中学校・高校がすべて１つの項目となっている点について、これを分けて章立てすべきか皆様のご意見を頂戴したいのですが、いかがでしょうか。 （こども支援課　菊池主査） 素案Ｐ２６の「④ 保護者への啓発」の対象が小・中学校だけになっておりますが、私の子どもが通っていた高校では保護者でも学校の図書館の本を借りることができ、図書館だよりなども非常に充実していました。高校だからといって保護者を啓発の対象から外すということを必ずしもしなくてもよいのかなと思います。 （森田座長） 小学校と中学校についてはどうでしょうか。分ける必要があるとお考えでしょうか。石原先生はいかがでしょうか。 （白山中学校　図書主任　石原氏） 中学校はそもそも司書がいないため、図書室の関係で何かをやろうとすると、図書担当の教員が片手間でそれをやる必要があり、そ

	ういう意味で小学校と違いは存在するのかと思いますが、同時に必ずしも分ける必要があるのかとも考えます。 （学校教育課　岩崎副主幹） 発達段階の違いもあり、分けたほうがよいとも感じますが、ただ分けて実際になにか異なったことができるかというとそうではないため、一緒でもよいと考えます。 （森田座長） 先ほどもお願いをいたしましたが、各機関での取り組み事項や、誤字脱字のご指摘についても、今週中にメールでお送りいただけますと幸いです。
4　報告	（事務局　佐藤主査） 計画案については、１０月２８日に開催される図書館協議会で聴取した意見を反映させたものを次回の懇談会では提示させていただきます。ご承知おきください。
5　その他	（事務局　佐藤主査） 次回会議の日程　１１月１６日（月）で調整。 今後のスケジュールについての説明。
6　閉会	（事務局　荻野館長）　あいさつ （事務局　岡部主査）　閉会

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和　８　年　１１　月　７　日　　署名　森田 隆

署名　西岡 里枝子